

# 山元選手トップ通過

## 上位12人が決勝大会進出

「第56回報知キス釣り選手権・SESSYA CUP」が11日、鳥取・弓ヶ浜で開催された。95人が参加。午前6時から4時間で、釣ったキスの尾数で順位を競った。食いが渋いなかで、ただ一人2ヶタ釣果の12尾を挙げた山元隆選手が予選トップ通過。上位12人が決勝大会（9月21日、鳥取・弓ヶ浜）に駒を進めた。また、新設の特別枠からシニアは山本茂子選手が2大会連続で決勝進出を決め、レディースは目川ひより選手が初切符をもぎ取った。今後は、6月1日に福井予選が、同7日に徳島予選が行われる。



【主催】報知新聞社  
【後援】全日本サーフキャストイング連盟  
【協賛】株式会社SESSYA  
【特別協賛】ふな名人  
【協力】株式会社サンライン、株式会社め針、マルキユー（株）、ギリン、株式会社レディーズ、東邦産業（株）、徳島河産、徳島三和自動車工業、株式会社プロス、株式会社元稲田本店、株式会社ひがみ、株式会社報知機、徳島林製作所

▽予選通過人数 基本的に参加者数の上位1割とし、端数は繰り上げ。今回は95人中、8位タイまでの上位12人とシニア（70歳以上）、レディースからそれぞれ最高釣果者に決勝大会進出の権利が与えられた。

決勝大会進出を果たした（前列左から）目川、村山、人見、大前、徳永、徳本、山元（後列左から）山本、妹尾、本房、真間、須田、橋口、増原の各選手。

◇鳥取予選の通過者◇

順位	選手名	所属クラブまたは住所	順位
1	山本茂子	76石川内灘町	2
1	目川ひより	25全日本サーフ	3
1	山元隆	53厚津市	12
2	山本茂子	43福山市	13
2	徳本真房	61福山	14
2	妹尾真	59福山	15
2	増原真	63福山	16
2	橋口真	52福山	17
2	須田真	66福山	18
2	村山真	55福山	19
2	大前真	55福山	20
2	徳永真	52福山	21
2	人見真	52福山	22
2	目川真	52福山	23
2	山元真	52福山	24
2	山本真	52福山	25
2	妹尾真	52福山	26
2	本房真	52福山	27
2	真間真	52福山	28
2	須田真	52福山	29
2	橋口真	52福山	30
2	増原真	52福山	31

3会場です。今年も3会場です。予選が開始される「第56回報知キス釣り選手権 SESSYA CUP」。その先陣を切って11日、鳥取・弓ヶ浜海岸で鳥取予選が行われた。前日は砂煙が渦を巻く暴風で開催が危ぶまれたが、この日は風も弱くなり釣りにベストなコンディション。少し胸をなで下ろした。ただ、下見した選手による釣果は芳しくないようだった。

美保湾展望駐車場に本部を設置し、午前6時に競技開始。しばらくしてエリアの北側から釣果を確認してまわった。1、2投目で素針を引く選手ばかりで、キスの顔を見られず「生体反応がない」という始末だった。

次に、南側から釣況を確認すると1、2尾と釣つていた選手がいた。1投目からアタリが出たところだった。3連で釣った選手や、単発ながらアタリが続く7

### 3会場です

今年も3会場です。予選が開始される「第56回報知キス釣り選手権 SESSYA CUP」。その先陣を切って11日、鳥取・弓ヶ浜海岸で鳥取予選が行われた。前日は砂煙が渦を巻く暴風で開催が危ぶまれたが、この日は風も弱くなり釣りにベストなコンディション。少し胸をなで下ろした。ただ、下見した選手による釣果は芳しくないようだった。

目川さん、3度目の正直。伊達競技委員長から選手権進出証を手渡され、目川さんはニッコリ。3度目の出場が決勝大会へ名乗りを上げた。魚の気配がない海に「足で釣る」を実践。移動を繰り返して、とにかく投げた。そして、ようやく探り当てたポイントで3尾をゲット。キス釣りを始めて3年目とまだ釣りは浅いが、釣りをする度に「何らかの収穫がありました」と経験を積み、腕を磨いた25歳。初めて立つ大舞台に「雰囲気を感じたいながら気楽に楽しみたい」と瞳を輝かせた。

その頃になると北側でも、7色以上の遠投で沖のかけ上がりや攻め、数尾を上げていた選手がいた。特に目を引いたのが山本茂子選手で、近投で2尾を仕留めていた。

釣果なし42人。釣果なしが42人いた状況下で、12尾を釣り上げた山元隆選手を始め、8位タイまでの12人とシニア、レディースから各1人の14選手が決勝大会進出を決めた。釣り場全体では北側は浅く、3色辺りしか上がりがなくなっている所もあり、水温が低い状態では少し厳しく思えた。南側に行くにつれ少し深くなっている場所もあり、その付近にキスがいたようだった。今後は水温も上がり、釣果もUPしていくように思える。



遠投する選手が多いなか、近投でキスを探る山本さん

## 虎の子「サワラ94センチ

### 広島・大越港 3.79キロ大型



サワラはシャープな引きと食味もよいので人気のターゲットだ。春になると産卵に瀬戸内海へ入ってくる。広島・福山市大越港出船の「海航丸」に17日、出掛けた。

午前5時半に出船し、「しまなみ海道」大島西沖へ向

かった。釣り方はSLJ（スーパーライトジギング）。テールフックにブレンドを付けた90センチのジグを底まで落とし、縦の釣りで開始した。すると誰かに50センチ前後のハマチやメジロがヒット。私もジグがアタリ中にラインが止まるアタリで54センチのサワラをキャッチした。

底から早巻き8回、スロ巻き1回の連続パターンで誘っていると、2度目の終わりに「ゴン」。80センチ

超の本命だった。しかし、タモ入れ時に操作ミスで無念のフックアウト。気を取り直していると同船者の方々にアシストフックやジグごと食われるサワラカッター被害が多発した。

「いるぞ」確信

「いるぞ」と確信すると、前回と同パターンでヒット。左右に走る引きは間違いないサワラだ。「パレるな」と折るような気持ちで操作した。やがて現れたの

は、先ほどよりひと回り大きいサワラ。「今度こそは」と竿先を水中につけたまま、リダーを残し30センチ以内まで巻いた。そしてクルクルと円を描くように回しながらタイミングを計ってネットへ誘導。無事にゲットしたのは94センチ、3.79キログラムの大型でした。結局、サワラはこの1尾でしたが、船全体ではメジロとハマチは多数取れたので良かったです。

問い合わせは、遊漁船「海航丸」（携帯電話080・38993・80994）へ。今回は1人1万1000円（報知APG・矢部 卓）